

乳量生産実態調査

山内 修 大城 幸盛

I はじめに

本県における乳牛は暑熱の影響を受けて産乳の低下があると思われるが、酪農家の実態が把握されてないために産乳量について調査した。

II 調査方法

1. 調査期間：1977年1月～12月
2. 調査酪農家：24戸（5年以上経験8戸、5年以下経験16戸）
3. 調査頭数：315頭
4. 調査市町村：具志頭村、東風平町、大里村、金武町、宜野座村、伊江村。

調査について

乳量の調査方法は、月1回酪農家を訪問し聞き取り調査を行い、この月の個体ごとの分娩、乾乳、種付、廃用月日等を調査し1日ごとの乳量の変化を調べた。乳量は沖縄県酪農協同組合に記録されているので利用した。

III 調査結果および考察

1. 産次について

調査した乳牛の産次割合は1産46.0%、2産23.2%、3産17.8%、4産5.7%、5産4.4%、7産1.6%、8産1.0%、9産0.3%、で1産～3産の間で87.0%であった。それは新規(1～2年)酪農家が16戸もあるために1産～3産牛に集中しているものと思われる。

2. 分娩について

月別分娩状況をみると1月～4月に67.7%、6月～9月に19.7%、10月～12月に12.6%の割合で分娩し1月～4月にかけて集中して分娩させ夏期分娩を避けているように思われる。

3. 月別1日当り乳量変動について

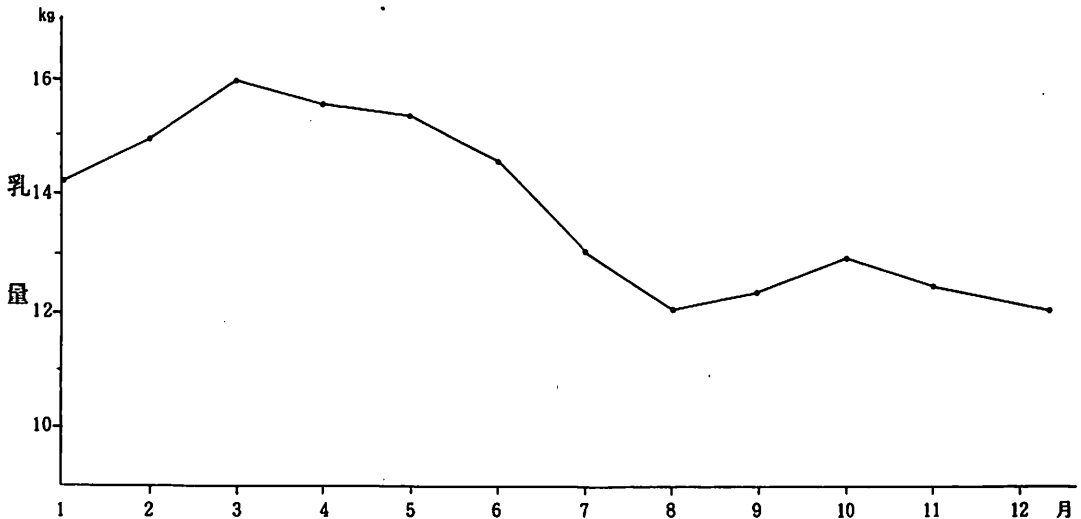


図-1 月別1日当り乳量変動

1月～3月までやや上昇し6月までゆるやかに減少しているが大きな変動はない。6月以降8月まで急激に減少し、その後やや上昇しているが1月～6月までの乳量に回復できない。

4. 1日1頭当り平均乳量について

1頭当りの年間平均乳量は、305日で4187kg、1日平均乳量は13.7kgであった。

5. 減乳率について

夏期(6月～9月)平均乳量は13.1kg、冬期は(1月～4月)15.1kgであった。冬期を100とした場合の夏期の減乳率は13.2%であった。

IV 要 約

酪農家24戸、調査頭数315頭の乳量調査した概要は次のとおりであった。

1. 乳牛の産次割合は1産～3産まで87.0%、4産～6産まで10.1%、7産以降2.9%であった。
2. 月別分娩状況をみると1月～4月に67.7%、6月～9月に19.7%、10月～12月に12.6%の割合で分娩していた。
3. 月別1日当り乳量変動は1月～3月までやや上昇し6月までゆるやかに減少し6月以降8月まで急激に減少していた。
4. 1頭当りの年間平均乳量305日で4187kg、1日平均乳量は13.7%であった。
5. 夏期減乳率は13.2%であった。